



初等部だより夏休み号

鎌倉女子大学初等部

平成29年7月20日

第5号

主体的に学習に取り組む態度 ～2030年～

部長代理 勝木 茂

気温と湿度の上昇から、7月に入り連続で外での朝礼を室内放送に切り替えて実施いたしました。この時期、熱中症の予防は不可欠です。初等部では、適切なエアコンの使用と、子どもたちへのこまめな水分補給の声掛けを積極的に行っております。また、水筒のお茶の補充ができるよう職員室前には、大きなやかんに毎日、麦茶を準備しています。熱中症の予防については9月になっても必要です。ご家庭でも予防について十分話し合ってくださいようお願いいたします。

さて、先日の保護者会時にもお話させていただきましたが、小学校においては、2020年度より「次期学習指導要領」が全面实施となります。初等部においては、特に、3・4年生「外国語活動」、5・6年生「外国語（英語）（教科）」を週2時間程度、先行実施する予定です。これに伴う授業時間数増加への対応の具体については、次回の保護者会（平成29年12月1日）までにはお伝えしたいと考えています。

昨年8月26日中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会より「次期学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめ」が出されました。その中に「2030年の社会と子供たちの未来」（予測困難な時代に、一人一人が未来の創り手となる）という項目があり、次のような指摘があります。（以下、

----- 部分審議のまとめより一部引用）

これからの子供たちが活躍する未来で一人一人に求められるのは、解き方があらかじめ定まった問題を効率的に解いたり、定められた手続きを効率的にこなしたりすることにとどまらず直面する様々な変化を柔軟に受け止め、感性を豊かに働かせながら、どのような未来を創っていくのか、どのように社会や人生をよりよいものにしていくのかを考え、主体的に学び続けて自らの能力を引き出し、自分なりに試行錯誤したり、多様な他者と協働したりして、新たな価値を生み出していくことであると考えられる。そのた

めに必要な力を、子供たち一人一人が学ぶことで身に付け、予測のできない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を発揮し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となっていくようにすることが重要である。

東京オリンピック・パラリンピックの開催から10年後の2030年、現在の1年生は19歳、6年生は25歳となっています。初等部においても、次期学習指導要領の実施に向けて、2030年を見据えながら準備にとりかかる必要があると考えています。

ところで、次期学習指導要領が実施され、いかに教育課程をはじめ様々な準備ができたとしても、学習の主体者の取り組み意欲がなければ「絵に描いた餅」になってしまいます。わたしは学習（教育）の原点は、「主体的に学習に取り組む態度」だと考えています。



いかに時代が変化しようとして、「自ら学ぶことを疎かにしなければ、人は成長し続けることが可能だ」と思います。

生涯学習が当たり前の時代、学ぶことは、本人に意欲があれば、方法に違いがあっても、いつでも可能です。そして、その基盤は、初等教育の時代に大きく形成されるのだと経験的にも感じています。

これは、教師の授業改善だけでは難しい問題です。学校と家庭がいっしょになって子どもたちを育てていくことがますます求められる時代が来ているのだと考えます。どうぞ引き続きのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

間もなく夏休み期間に入ります。子どもたちにとって健康で安全な、そしてたくさんの有意義な体験ができる夏休みとなるよう、どうぞよろしくお願いいたします。